



世のなか安穩なれ

中央仏教学院講師 星野元貞



わたしたちは今イラク戦争の真只中にいます。イラクではアメリカ兵・イラク政府軍と反政府軍との間には残忍な殺戮が繰り返されています。そしてこの悲惨な戦争は止むことがありません。それは戦争を指導する政治家たちが安全な場所にあり恐怖にさらされることがないからでしょう。

それはともかく、仏教はこのような人間の愚かな行為を厳しく諫めてきました。原始仏教経典の中に「すべての人間は刀杖（武器）を恐れ、すべての人間は死を恐れる。自分の身に思いくらべて、殺すなかれ、殺さしむなかれ」とあります。またご承知の『無量寿経』には国富民安兵戈無用（『註釈版聖典』73頁）ともあります。豊かな国と心安らかな民衆に武器は必要ないのです。さらに『梵網経』には「お前たち仏弟子よ、殺生の武器の類など一切を所有することを禁止する」とあり、戦争を根基から否定するのです。

日本の多くの仏教者たちも平和を求めて止みませんでした。日本人ではじめて仏教を正しく理解した聖徳太子は「憲法十七条」の第一条で「和らかなるをもって貴しとなし」（同1433頁）として、人びとの「和」を第一としました。

また、法然聖人の父漆間時国は明石源内定明の夜討ちにあい、末期に際して、子息勢至丸（法然）に「復讐は復讐をよび尽きないから、出家して真実の道を求めてほしい」と遺言されたと伝えられています。いまさらながら大切な説諭であります。

さて、私たちの親鸞聖人も「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」（『親鸞聖人御消息』同784頁）と叫ばれました。戦争は人間の飽くなき欲望の追求（我執）から惹起しますが、それを根底から否定（無我）するのが仏教です。その仏教がひろまることによって真の平和がもたらされるのです。

そしてちかごろ、本願寺福岡会館で「訴えます 武器で命を奪うなど 命を生みし女性の声で」との反戦標語を見ました。この文言を私の寺の門前に転載掲示しました。さっそく「心に残る標語を有難うございました」との電話がありました。一句の標語で多くの人びとの心に感動をよび起こすのです。私たちの一人ひとりの声は小さくても、親鸞聖人750回大遠忌のスローガンである「世のなか安穩なれ」のスローガンをみんなで訴えつづけたいものです。

（元龍谷大学助教授：真宗史担当）